

平成 2 1 年度当初予算 施策別概要

4 2 1 自然環境の保全・再生と活用

(主担当部 : 環境森林部)

42101	野生動植物保全活動の推進	(環境森林部)
42102	自然とのふれあいの確保	(環境森林部)
42103	河川、海岸の保全・再生	(県土整備部)
42104	自然環境保全の研究の推進	(環境森林部)

< 施策の目的 >

(対象) 県民が

(意図) 自然環境を地域の自然的社会的条件に応じて保全・再生・活用している (地域の自然的社会的条件に応じて保全・再生・活用された自然環境に囲まれ、生活を営んでいる)

< 施策の数値目標 >

施策目標項目 (主指標)		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
多様な自然環境の保全面積	目標値	-	53,500ha	53,517ha	53,526ha	53,535ha
	実績値	53,485ha	53,492ha			

「自然公園特別地域面積」、自然環境保全地域特別地区面積、「里地里山保全活動計画認定面積」の合計面積 (環境森林部自然環境室調べ)

県の取組目標項目 (副指標)		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
里地里山保全活動計画認定団体 およびみんなで自然を守る認証 団体累計数	目標値	-	29 団体	35 団体	41 団体	47 団体
	実績値	21 団体	25 団体			

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・ 県民の自然環境に対する認識の高まりや、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) の国内開催の決定に伴う生物多様性への関心の高まりから、里地里山など身近な自然の大切さが見直され、県民や N P O など多様な活動団体が、主体となった豊かな生物多様性等の保全活動が、より一層重要になっています。
- ・ また、開発などに伴う環境への負荷の増加により、野生動植物の生息環境が悪化しているなど、野生動植物の保護が課題となっていることから、自然環境保全のための調査や情報の整理、さらに開発などを行う際には自然環境への影響の低減に配慮して、野生動植物の保護をはかる必要があります。一方、山村地域等においては、シカなどによる農林水産物の被害が拡大してきています。なお、国において、平成 20 年 6 月に生物多様性基本法が施行され、同法で各都道府県が「生物多様性地域戦略を策定するよう努めるものとする。」と定められました。
- ・ 平成 20 年 9 月 2 日から 5 日までの集中豪雨により東海自然歩道が被災し、通行止めとなっており、早急な復旧が必要です。
- ・ 自然環境回復に効果的な森林管理技術や獣害防止技術の開発に取り組んでいます。

< 平成 2 1 年度の取組方向 >

多様な自然環境を保全するため、三重県自然環境保全地域などの管理や、里地里山などの身近な自然を保全する県民による活動を支援します。

三重県版生物多様性地域戦略を策定するよう努めるとともに、「三重県レッドデータブック 2005」で明らかになった希少野生動植物リストを現状に即したリストとして更新していくために、策定から

5年後（2010年度）の更新を目指して調査検討を進めます。

また、COP10開催と連携した自然環境と生物多様性の理解と関心を深める活動について検討していきます。

鳥獣害対策として、農林水産物に被害を及ぼす鳥獣の捕獲や狩猟の適正化を進めます。

獣害対策で、情報の少ない獣（ニホンザル）については、保護管理方針等を作成するための調査を進めます。

自然公園などの豊かな自然と県民とのふれあいを促進するため、自然公園などの施設の整備や維持管理を行います。

集中豪雨で被災した自然歩道の復旧を進めます。

管理不足の人工林の間伐が、樹木の成長や構成、土砂流出防止等に及ぼす影響を調査し、自然環境回復に効果的な間伐技術開発に取り組みます。

河川が本来持っている豊かな自然環境を保全、整備することにより、生物の多様性や生育空間を確保するとともに、潤いのある水辺空間を創出します。

自然の消波機能と生態系が存在する場である海浜を保全、復元することにより、水と親しむことができる自然豊かな水辺空間を創出します。

<主な事業>

自然環境保全対策事業【基本事業名：42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額：(20) 1,558 千円 (21) 1,549 千円

事業概要：優れた自然環境を有する地域を保全するため、自然環境保全地域の新たな指定や適正管理を進めます。また、里地里山保全活動計画に基づく活動を支援します。

(新) 生物多様性地域戦略事業【基本事業名：42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額：(20) - 千円 (21) 12,473 千円

事業概要：平成22年、愛知県下で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されるにあたり、県としてもその趣旨に賛同し、「生物多様性の保全と持続可能な利用を基本理念とした、自然と共生する地域づくり」を行うため、

- ・自然環境にふれるエコツアー、保全活動に向けたフォーラムの開催
- ・国内外からの来訪者を意識した修景整備
- ・レッドデータブック掲載リスト見直し調査
- ・生物多様性地域戦略の作成

を実施していきます。

生物多様性確保事業【基本事業名：42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額：(20) 14,187 千円 (21) 14,689 千円

事業概要：多様な自然環境の保全・野生生物の保護にかかる普及啓発を図るとともに、鳥獣保護区等の指定など鳥獣保護事業計画に基づく事業を実施します。また、特定鳥獣保護管理計画に基づき、シカの適正な頭数管理を進めていきます。

(新) 特定鳥獣保護管理事業【基本事業名：42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額：(20) - 千円 (21) 3,443 千円

事業概要：ニホンザルによる生活被害、農業被害が著しいが、ニホンザルの群れの情報が乏しいため、県内の群れの数や生息範囲を特定するための調査を行い、保護管理方針（ニホンザル）の作成を進めます。

大杉谷登山歩道災害復旧事業【基本事業名：42102 自然とのふれあいの確保】

予算額：(20) 38,196 千円 (21) 43,234 千円

事業概要： 優れた自然の風景地を県民の資産として継承するため、平成 16 年に被災した大杉谷登山歩道の災害復旧を実施し、適正な保護、管理を行うとともに、その利用を促進します。

(新) 東海自然歩道復旧事業【基本事業名：42102 自然とのふれあいの確保】

予算額：(20) - 千円 (21) 5,000 千円

事業概要： 県民が自然公園とのふれあいを促進するため、平成 20 年 9 月の集中豪雨で被災を受け、現在、一部通行止めとなっている東海自然歩道の災害復旧工事を行います。

国補海岸環境整備事業【基本事業名：42103 河川、海岸の保全・再生】

予算額：(20) 90,000 千円 (21) 90,000 千円

事業概要： 海岸利用者に憩いや安らぎを提供するため、高潮や波浪等による災害に対する安全性を向上させるとともに、豊かで潤いのある快適な海岸環境を整備します。